

事業実施者の実感に基づく効果について

1. 目的

県民まちなみ緑化事業の評価検証については、緑が本来持つ公益的効果については定量化による評価を行ってきたが、波及的効果については事業実施者を対象としたヒアリング調査等から、その重要性については認識されるものの、個々の事業実施者の実感による定性的な把握に留まっている。

このような認識のもと、事業実施者の実感に基づく効果について客観的に評価するため、波及的効果について共通の指標を用いて数量化し、その程度や比較を通じて評価するための手法として、実感に関するアンケートを検討・実施した。

2. 実施内容

対象者：平成 28～30 年度 県民まちなみ緑化事業の実施者（重複団体を除いた 410 団体）

回答数：310 団体（回答率 75.6%）、353 サンプル（複数メニュー事業実施の場合は、異なる実施場所ごとにアンケート回答を依頼）

アンケート内容：評価・検証報告書に示す、緑が本来持つ 3 つの公益的効果、5 つの波及的効果の計 8 つの効果ごとに、当事業が目指す効果に関する設問を設定し、実感の程度を 4 段階（全くあてはまらない、あまりあてはまらない、ややあてはまる、あてはまる）で回答。

評価方法：全くあてはまらない＝0 点、あまりあてはまらない＝1 点、ややあてはまる＝2 点、あてはまる＝3 点とし、効果の分類（8 つの効果）ごとに得点を集計し、満点（3 点×3 問×サンプル数）に対する得点率で評価。

3. 分析結果・考察

3-1. 総括

＜事業全体の傾向について＞

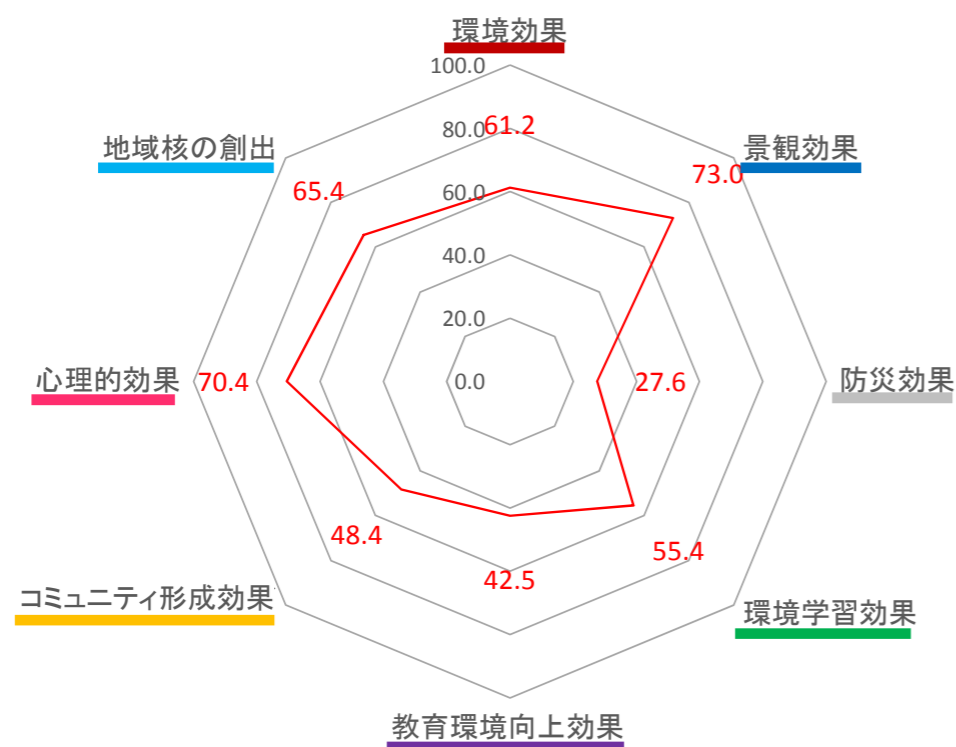
- 景観効果、心理的効果が 70 点以上、次いで環境効果や地域核の創出が 60 点以上となっており、効果を実感している割合が高く、事業メニュー、地域、実施主体などによらず、効果を実感されやすいことがうかがえる。
- 環境学習効果や教育環境向上効果、コミュニティ形成効果については、50 点前後となっており、上記の効果と比較するとやや低い結果となっているが、事業メニューや実施主体などによって効果の実感に差が生じている。
- 防災効果は 27.6 点であり実感されていない。これは、防災効果を目的として事業を実施される事業者が少ないこと、防災効果を実感できる機会がほとんどないことなどが要因と考えられる。

＜当事業による事業効果等について＞

これまでは事業全体での定量的評価に留まっていたが、本アンケートを通じて、事業メニュー、地域、実施主体によって多種多様な事業目的に応じて、それぞれに実感されている効果が異なることが明らかとなり、様々な主体を対象としてきめ細やかに支援する当事業の意義が示された。

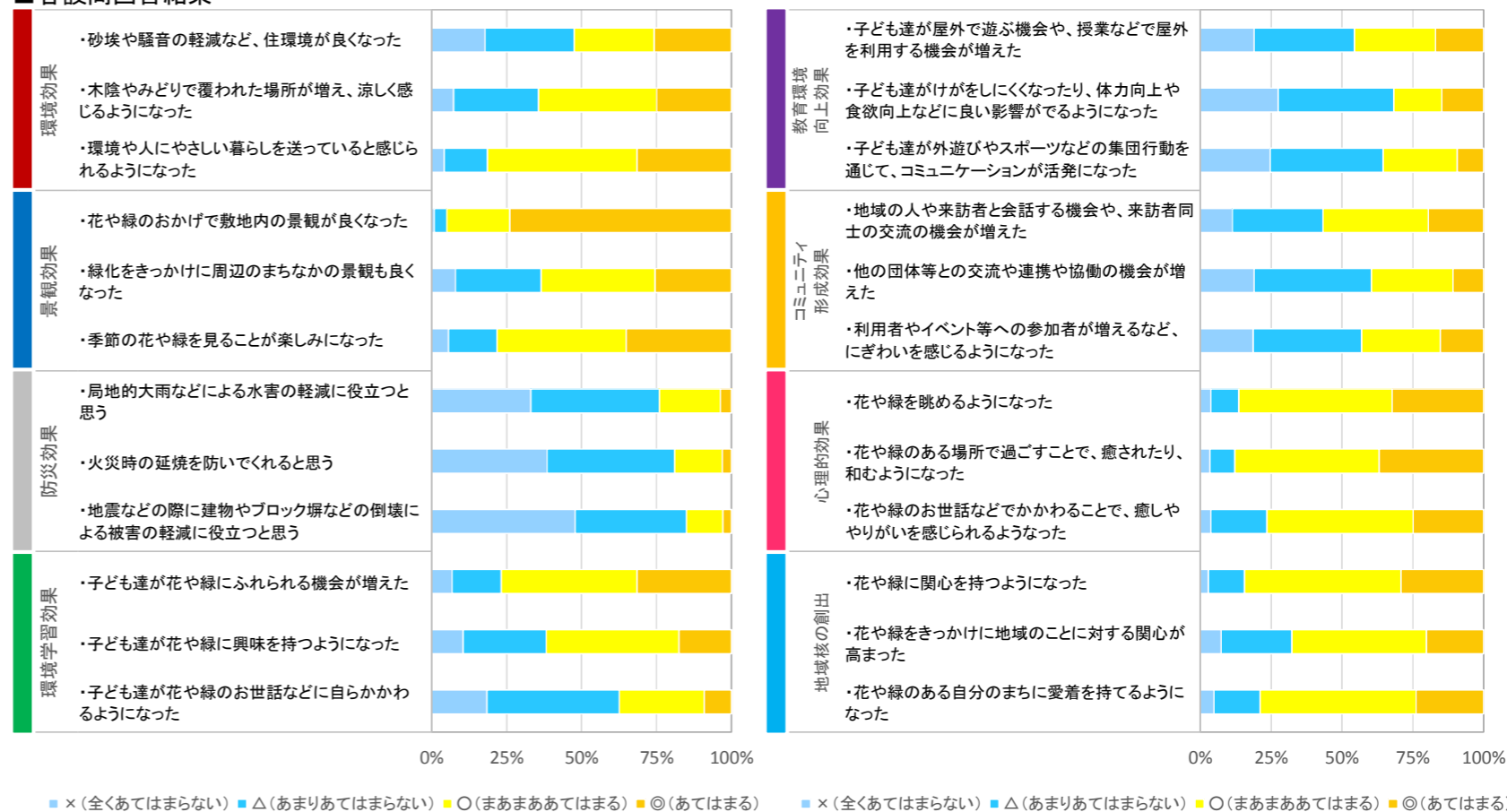
また、本アンケート結果をふまえ、事業メニューや実施主体により異なる効果の実感の特徴をとらえ、緑化施策の内容やより効果的な事業 PR 等に活かすことが必要である。

■事業全体の集計結果



※各効果の分類ごとの満点(3点×3問×サンプル数)に対する得点率。

■各設問回答結果



■ × (全くあてはまらない) ■ △ (あまりあてはまらない) ■ ○ (まあまああてはまる) ■ ◎ (あてはまる)

3-2. 事業メニュー別、地域別、実施主体別分析

	実感されている効果の特徴【事業メニュー別】	実感されている効果の特徴【地域別】	実感されている効果の特徴【実施主体別】
集計結果	<p>実感されている効果【事業メニュー別】</p> <p>※各効果の分類ごとの満点(3点×3問×サンプル数)に対する得点率。 ※合計サンプル数が10件未満の事業メニューは分析の対象から除外した。</p>	<p>実感されている効果【地域別】</p> <p>※各効果の分類ごとの満点(3点×3問×サンプル数)に対する得点率。</p>	<p>実感されている効果【事業者種別】</p> <p>※各効果の分類ごとの満点(3点×3問×サンプル数)に対する得点率。 ※「その他」は、公園等の緑化ボランティア、その他実行委員会、等。</p>
特徴的な傾向	<ul style="list-style-type: none"> 全体傾向と比較して、特に環境効果、環境学習効果、教育環境向上効果について、事業メニュー間での効果の実感に差が生じている。特に教育環境向上効果は子どもの生活の変化に関する設問としたため、一般緑化で子どもの関わりの少ない団体には回答しにくかったと思われる。 特に環境学習効果や教育環境向上効果については、校園庭の芝生化において突出して効果を実感している割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体傾向と比較して、各効果の実感のされ方の傾向は同じであるが、各効果の実感の大きさの程度に地域差が生じている。 都市部を抱える神戸、阪神南、阪神北、東播磨地域において、その他の地域よりも効果を実感されている割合が高いことから、緑が少なく、量的確保が難しい都市部において、より効果を実感されていることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体傾向と比較して、環境効果や防災効果、環境学習効果、教育環境向上効果、コミュニティ形成効果について、実施主体間での効果の実感に差が生じている。 特に、学校園関連団体では環境学習効果、教育環境向上効果が、民間事業者では防災効果について効果を実感している割合が高い。
個別の特徴	<p>■一般緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観効果、心理的効果、地域核の創出について、効果があったと実感されている割合が高い。 ⇒景観効果や心理的効果については、高木、中低木など視認性が高い立体的な植栽であるため、地域核の創出については、サクラなど地域のシンボルなどとなる樹種を選択など、目的に応じた樹種や植栽場所の選定が比較的柔軟に対応可能であるためと考えられる。 <p>■ひろばの芝生化</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティ形成効果について、効果があったと実感されている割合が他の事業メニューよりも高い。 ⇒地域住民が集う場所での実施事例が多いことから、緑化を契機にコミュニティ形成が促進されたと考えられる。 <p>■校園庭の芝生化</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境効果、環境学習効果、教育環境向上効果について、効果があったと実感されている割合が他の事業メニューよりも高い。 ⇒環境効果については、砂埃の軽減や面積規模が大きいいため地表面温度の低下などの効果を実感されているため、環境学習効果や教育環境向上効果については、利用者である園児・児童・生徒の様子を間近で確認できることなどから実感されていることが考えられる。 <p>■駐車場緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観効果については効果を実感されている割合がやや高いが、その他の効果については他の事業メニューと比較して相対的に低い。 ⇒利用者が限定されることや公開性が低いことなどから、他の事業メニューと比較して効果を実感しづらいことが考えられる。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般緑化と併せてひろばや校園庭の芝生化を実施した場合、それぞれ単独で実施した場合と比較して効果の実感が高くなる傾向がある。 	<p>■地域別全体</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業全体での傾向で見られた景観効果、心理的効果について効果があったと実感されている割合が高く、防災効果が低いという傾向については、地域差は見られない。 都市部を抱える神戸、阪神南、阪神北、東播磨地域では、特に環境効果、景観効果、環境学習効果、教育環境向上効果についてその他の地域よりも効果があったと実感されている割合が高い。 ⇒緑が少ない都市部において、緑化によって緑を感じたりふれあえたりする機会が増えることで、効果の実感が高く発現していることがうかがえる。 <p>■各地域の特長</p> <ul style="list-style-type: none"> 東播磨地域では、すべての項目において効果があったと実感している割合が最も高い。 神戸、淡路、丹波地域では、教育環境向上効果について、効果があったと実感している割合が他の地域と比較して相対的に低い。 西播磨地域では、景観効果について、効果があったと実感している割合が他の地域と比較して相対的に低い。 	<p>■住民団体</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観効果や地域核の創出について、効果があったと実感されている割合が高い。 ⇒まちなかの景観形成や地域の魅力づくりに貢献していると考えられる。 <p>■学校園関連団体</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境学習効果、教育環境向上効果について、効果があったと実感されている割合が他の実施主体と比較して突出して高い。 ⇒事業実施の目的に即した効果を、期待どおり実感されていると考えられる。 コミュニティ形成効果について、効果があったと実感されている割合がやや低い。 ⇒一部事例でみられる地域との連携によるコミュニティ形成効果の発現は先進事例であり、事業実施者(学校等)としては、子ども達のための教育環境の向上が第一目標として考えられていることがうかがえる。 <p>■民間事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境効果、防災効果、心理的効果、地域核の創出について、効果があったと実感している割合が、他の実施主体と比較して高い。 ⇒地域貢献という事業実施の目的に即した効果を、期待通り実感されていると考えられる。 <p>■住民団体(ボランティア等)</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティ形成効果について、効果があったと実感している割合が高い。 ⇒緑化を目的に集まった地域住民やボランティア等で組織される団体が多いことから、緑化を契機に団体メンバー間や来訪者との交流が促進されたと考えられる。